

平成30年8月3日

東部農林振興センター 雲南事務所 農業普及部

標 題	産直秋まき野菜栽培講習会にて農薬の適正使用・GAP推進を実施 「安全性を高め、正しい農場管理に向かってすすめ！」
-----	-------------------------------------------------------------

(ダイジェスト)

平成30年6月25日から7月2日(月)の期間、JAしまね雲南地区本部主催により産直秋まき野菜栽培講習会が各地区10会場にて開催されました。農業普及部からは、農薬の適正使用と産直GAP推進を行いました。

JAしまね雲南地区本部における産直組織(奥出雲産直振興推進協議会)は会員数約3000名で様々な野菜や加工品を生産・販売しています。このたびの講習会では秋野菜の講習会に合わせて、農薬の適正使用と産直GAPの推進を行いました。

今回の講習会には、産直会員200名の参加があり、はじめにJA担当者がブロッコリーなどの秋野菜栽培のポイントとともに栽培履歴票の記帳、農薬の正しい使い方を説明し、次にJA全農からは農薬に関する法令についての説明がありました。

農業普及部からは、摘果メロンの不適正使用が問題となっている事例の紹介や農薬使用において誤解されやすい農薬の適用作物を解説するとともに産直GAPとしての農薬保管や残留農薬基準超過を防ぐポイントを説明し、その後、GAPの取り組み意向調査も兼ねて10項目からなる自己点検を実施し、91名から回答がありました。

農薬の登録内容の事前確認、正確な計量については、「取り組んでいる」と回答した割合が8割以上でしたが、鍵のかかる農薬の保管庫利用の割合は3割以下にとどまり、保管に課題があることが推測されます。

講習会に参加する生産者は比較的農薬の適正使用、GAPに関心のある方が多く、自己点検によると農薬使用は概ね適正に使用されていましたが、講習会に参加していない方の取組が未確認であり継続的な周知・注意喚起が必要と考えられます。

今後も農業普及部としては、農薬の適正使用を中心とした産直GAPを関係機関と推進し、生産者と農産物の安全性と信頼を高めるため、取り組んでいきます。